

エンディング産業展2017 『まいてら』出展レポート

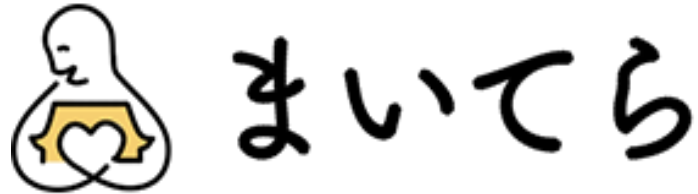
－ ブース来訪者の相談内容の傾向

平成29年9月

一般社団法人お寺の未来



本レポートの概要	P3
『まいてら』ブース来訪者の相談傾向	P6
まとめ	P12
(参考)参加寺院の声	P15



■ 本レポート公開の目的

- エンディング産業展2017の『まいてら』ブースにおける、来訪者の貴重な声を示唆としてまとめ上げ、多くの寺院や関係業者の発展に資するべく公開するもの

■ 実施期間 ※エンディング産業展2017開催期間

- 2017年8月23日(水)から25日(金)

■ 相談内容の記録の考え方

- 個人情報十分に保護されるよう、ブース来訪者の匿名性を保つ
- 記録の意味があると判断された相談内容のみ、記録する（記録件数:61件）

仏教や寺院の魅力を分かりやすく伝えることを通じ、次世代檀信徒をはじめとした生活者とお寺とのご縁を育む、今までになかったお寺ポータルサイトです

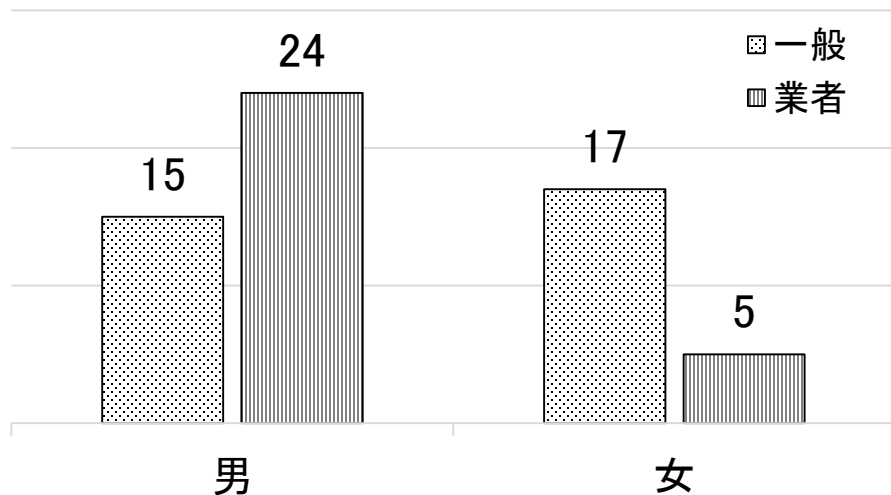


(参考)『まいてら』ブースの様子

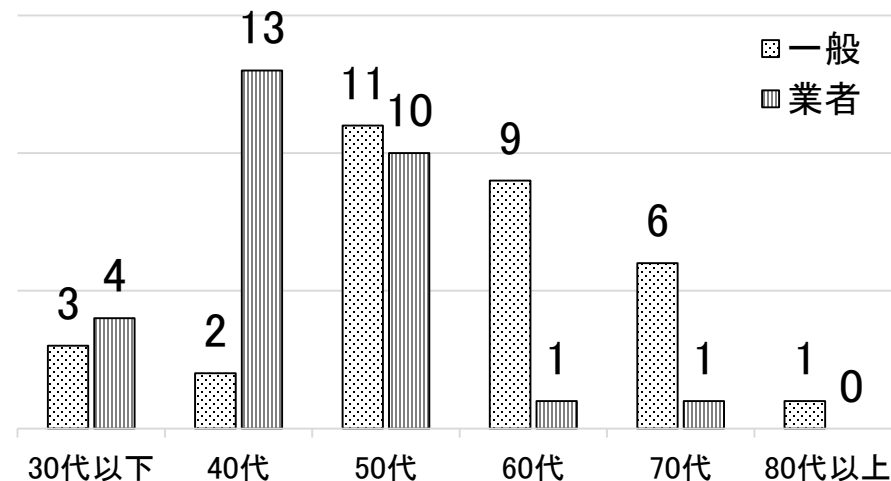


『まいてら』ブース来訪者の 相談傾向

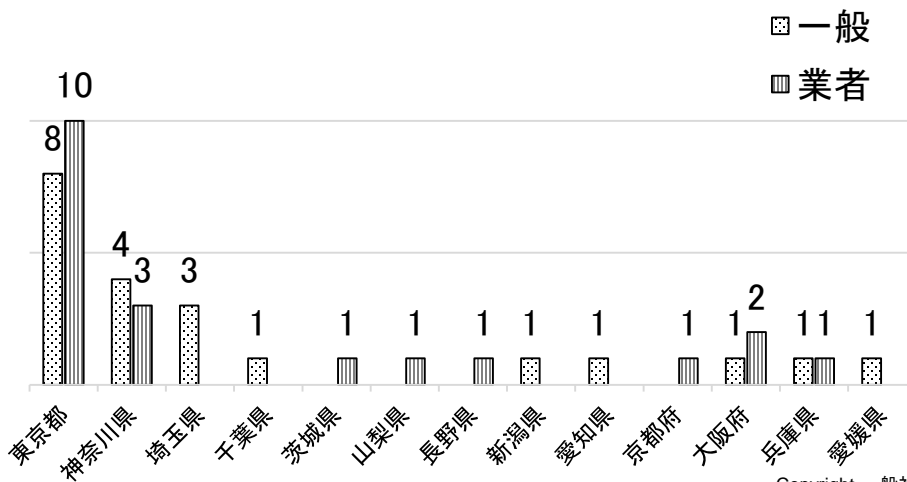
性別



年代



居住地

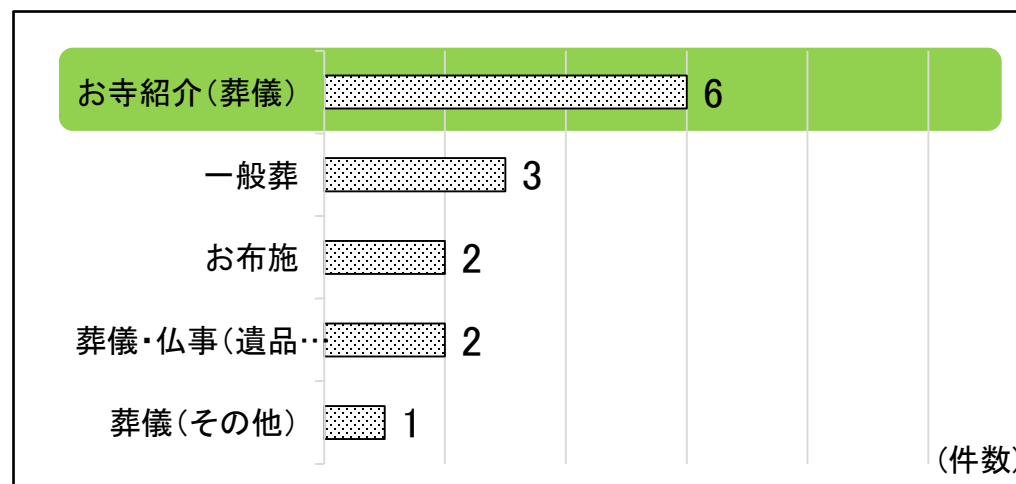
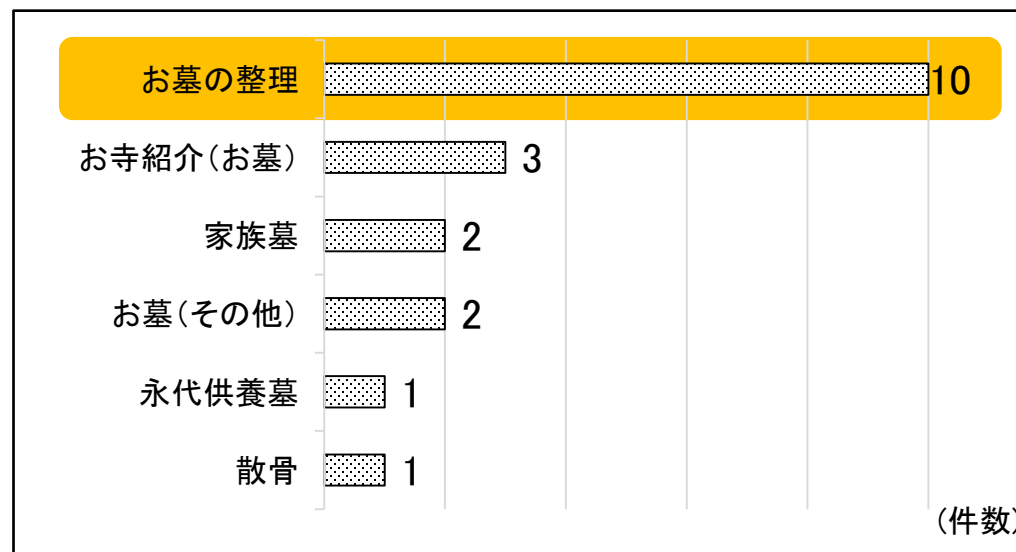
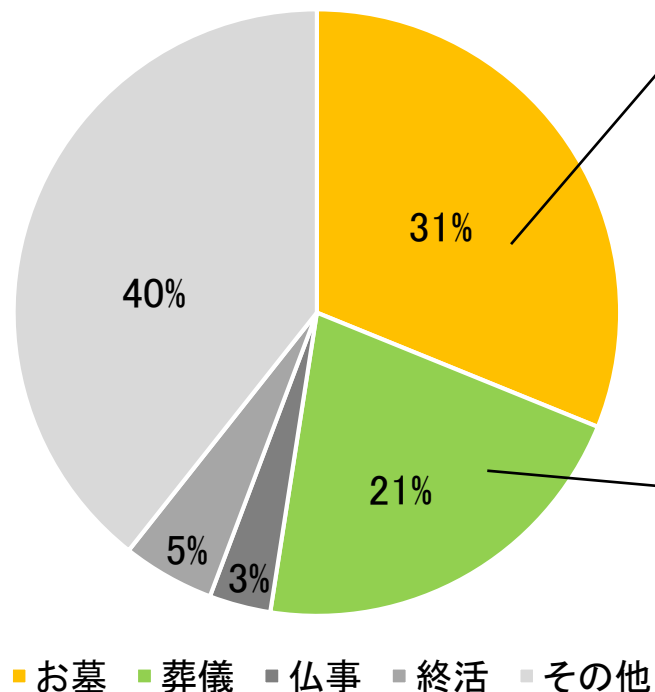


【データから見えること】

- 相談として記録された一般生活者の人数は、男女ともほぼ同じ
- 一般生活者の年代は50代・60代がメイン。(後述の相談テーマでも分かるが、自分のことよりも親世代の終活について気になっていると考えられる)
- 居住地は首都圏中心だが、遠隔地からも来場(切実な悩みがあれば遠くからも来るのではないかと)

相談テーマは、「お墓の整理(墓じまい)」と「葬儀のお寺紹介」がもっとも多かった

相談テーマの分布 (N=61)



そもそもの改葬の手続きや進め方が分からない

- ・両親のお骨を地方のお墓から抜き、神奈川の市営霊園に移動したいがどうしたらよいか？市営霊園へ移転後に菩提寺を探したい。（一般）
- ・東京在住一人暮らしで、京都に菩提寺がある。先代住職は母の葬儀の際に東京まで参ってくれた。〇〇市(関西)の市営霊園に一族の広い面積の墓がある。守る人がないので墓じまいし、京都に移す予定。菩提寺が今度合同墓を作るので、そちらに納骨したい。住職の了承を得ている。どういう手続きで進めたらよいか？（一般）

お墓の移転先となるお寺を探したいが、移転先のお寺をどう探したらよいか分からない

- ・熊本に実家のお墓があるけれども、自分は熊本を離れて関西で生活しているので、実家の墓を継承するのは難しい。そのため墓じまいをして、今いる近くに移すことを考えている。墓地やお寺を紹介してもらえるだろうか？（一般）

お墓の今後を検討するに際して、どのように考えたらよいか分からない

- ・父方は四国、母方は九州に墓があり、自分は神奈川県在住。現在は年一回墓参りをしているが、今後はどうすれば良いか？（一般）

お墓を整理したい意思はあるものの、必要となる菩提寺とのコミュニケーションにためらいを感じている

- ・娘しかいないので墓じまいをしたいが、菩提寺には相談しにくい。お寺によってお布施の金額がずいぶん違う。態度もお坊さんによってずいぶん違う。（一般）
- ・先祖のお墓から両親だけ出せるのか？自分は子どもがいないので不安。先祖は院号なので院号はいくらになるのか？（一般）
- ・先祖のお墓が田舎にあり、仏壇は都内の自宅にある。お墓を自分の代で整理したく、自然消滅(無縁化)を希望。金額と負担感で菩提寺に連絡したくない。戒名をつけてほしいが、戒名なしでもよいか？都内のお寺では話も聞いてくれない（一般）

お墓の整理において、菩提寺とのトラブルを抱えている

- ・墓じまいを菩提寺に相談したところ、数百万円を請求された。行政書士に相談し、現在協議中。永代供養できるお寺を探している（一般）

お寺との付き合いがない人にとって、葬儀の際のお寺を選び、ご縁を結べる情報があることに驚きの声

- ・さいたま市在住。お付き合いをしているお寺がないのだけれども、自分の葬儀はどうなるだろうか。ここ(=まいてら)に良いお寺はありますか？このお寺は遠くても来てくれたりしますか？（一般）
- ・葬儀の時、お寺さんを紹介していただけるのですか？（一般）
- ・自分の実家の宗派は分からないが、それでも頼めるのでしょうか？どのお寺に頼めばよいのですか？（一般）
- ・実家は広島県だが、東京に出て菩提寺なし。信頼できるお寺を探している。実家は〇〇宗だが今はこだわりはない。まいてらのような情報があるのはありがたい（一般）

業者にとっても、安心のお寺の情報が可視化されていることは有益と感じている

- ・〇〇市内に紹介できる宗派のお寺がないので、ぜひ良いお寺があればつながりたい。お布施について柔軟に相談に乗ってもらえることが大切なので、まいてらのお寺のお布施の水準はどのようなものか？（業者）
- ・葬儀社なので、安心の寺院を紹介できるなら、ぜひ活用したい。プライベートでは、菩提寺との付き合いに難しさを感じている。会費の統一性もない。（業者）
- ・ビル管理会社を経営しているが、最近は孤独死の際の無縁の方が増えている。そのような方もお寺で供養してもらえるのか？（業者）

明確な登録基準に基づいて安心のお寺を紹介するサービスが存在することに、驚きの声が多く聞かれた

- ・まいてらの存在にびっくり。お付き合いのあるお寺さんとの関係があまりよくないので、志の高いお坊さんやお寺があることに感激した。早く新潟県のお寺さんにも登録してほしい。(一般)
- ・今後のことをと思い、終活について勉強しに来た。お寺のこんなサービスがあるとは知らなかった。時代を感じるし、サイトを見たいと思う。(一般)
- ・実家は広島で、そこにお寺はあるが、住んでいる東京圏の身近で安心できるお寺を探したいと考えている。ちゃんとお布施もおさめるし、きっちりしたお寺を見つけない。実際にサイトを見たい。(一般)
- ・相談できるお坊さんが少ない。〇〇宗のお坊さんと話した時、上から目線で「お経をあげてやっている」という雰囲気、しんどかった。気さくに話せるお坊さんと出会いたい。まいてらのようなサービスがあれば、お墓を建てる時に相談できるのでありがたい。(一般)
- ・お寺を紹介してほしいと言われても、なかなか本当に紹介したいと思えるお寺さんがいない。だからこそ、まいてらのような取り組みは良いことだと思う。(業者)

グループホームにおける心のケアにおいてお寺に対する期待がある

- ・首都圏で老人ホーム(グループホーム)を作る予定。格安で質を維持しつつ行ないたいが、心のケアの時にお寺さんに相談できるとありがたい。首都圏のお寺をご紹介いただければありがたい。(業者)

お寺との協力を通じて、お墓の整理の流れに一石を投じたいという思いを石材店も持っている

- ・近年、墓じまいが流行っているけれども、墓じまいを先に送る方法を提案していきたいと考えている。そこで、関西のあるお寺にお願いし、このお盆期間中にアンケートを実施させてもらい、お墓参りされる方に「あなたがお参りしたお墓とあなたはどのような関係ですか？」と質問した。お寺の墓地の約75%のお墓にお参りした人がいて、半数が直系ではない関係(娘、親族等)。そうした人たちは、将来的に墓じまいが必要になると考えていて、特に次の世代の負担にならないように自分たちの代で墓じまいしなければと考えている。今、すぐに墓じまいではなく、本人が入って(何年か)一定期間、合同募などで供養の後に墓じまいなどの提案をしている。アンケート結果も踏まえて、昨今の墓じまいブームでお墓がお寺からどんどん消えている現状に少しでも歯止めをかけてお寺から離れていかない仕掛けを、墓石屋としても積極的に協力し提案していきたい。(業者)

まとめ

菩提寺との相互理解が希薄な中、お墓の整理に関する結論が導き出されやすい状況

- ・ブースへの一般来場者は、40代・50代が最多。いわゆる「終活」のメイン世代とは異なるが、相談テーマに鑑みると、「自分の終活以前に、先祖・親のお墓にまつわる問題を整理したい」という思いが垣間見えた
- ・「お墓を整理する手続きはどのようなものか?」「遠く離れた実感のお墓の今後をどう考えればよいか?」など曖昧な相談内容が多く、身近に頼れる相談先もないため、漠然とした不安や悩みに終始している傾向も見られた
- ・また、本来は菩提寺に相談するのが好ましいが、菩提寺とのコミュニケーションに恐れや不安を感じている来訪者も見られた。結果として、菩提寺と檀信徒の間で適切な一致点を見出すコミュニケーションが行われなことで、相互理解のない極端な結論に至るリスクが潜在的には大きい

示唆

檀信徒も積極的に移転等のお墓の整理をしたいわけではない。むしろ、お寺側が「お墓の整理」について積極的に相談に応じることで相互理解が深まり、極端な結論によって仏縁が途切れる事態も極少化され、菩提寺への感謝にもつながり得るのではないか

弔いの文化を次代に相続するため、お寺と積極的に連携したい意向を持つ関係業者は少なくない

- ・石材店・葬儀社などのお寺との関わりが深い業者にとっても、生活者への提供価値を高め、弔いの文化を次世代に相続するためにも、志のあるお寺と積極的に連携したいという意思が強く見られた
- ・特に業者は、急変する弔いの形について強い危機感を抱いており、適切な対応策を取るためにもお寺との連携は急務だが、志を一にするお寺が必ずしも多くない現状に忸怩たる思いを抱えていた

示唆

関係業者の危機感は強い。お寺も関係業者に積極的に相談することで、檀信徒に様々な選択肢を提供でき、檀信徒が適切な結論を導きやすい状況になるのではないか

登録基準に基づいて、お寺の情報が可視化された「まいてら」の取り組みに対し、肯定的な評価が多い

- ・『まいてら』の存在そのものに驚く来訪者が多く見られ、「分かりやすく可視化されたお寺の情報」によって、生活者がお寺を主体的に比較検討できることは、時代に適した流れとして、来訪者に好意的に受け止められた。
- ・また、「安心のお寺10ヶ条」による一定の登録基準があることも、お寺を選ぶ際の安心材料の一つとして肯定的に評価する声が多く聞かれた
- ・登録寺院の僧侶が実際にブースに立ち、来訪者に中立的に対応・傾聴したことも、来場者からの高評価につながったと考えられる

示唆

- ・生活者が能動的かつ主体的に様々な物事を選択する時代において、お寺が透明性の高い情報を積極的に公開することが、生活者や社会からの信頼につながり、変化の速い時代への適応力が高まる
- ・また、ネット情報のみに関せず、寺院・僧侶が生活者の相談に中立的に応じるリアルな場・機会が増えることは、お寺と社会の相互理解を深め、社会からの信頼性向上にも寄与するのではないか

(参考)

参加寺院の声

(参考)参加寺院の声



今回のエンディング産業展では、まいてら登録寺院が実際にブースで来訪者に対応しました。産業展に参加したまいてら登録寺院の感想(一部)を以下にご紹介します。

- ・ブースに立ってみて、お寺と縁を創ることがとても望まれている。業界人、一般人関係なく、簡単に信用できるものを望んでいると思った。ただ、うかうかしているとあっと言う間に、上をいくサイトが現れる可能性もあると思いました
- ・エンディングというものに関わり、多岐にわたる業種、業者があり、産業として多くの「モノ」が企画、開発、販売していることを初めて知りました。そこには、(当たり前かもしれませんが)「利益」という目的、価値観が渦巻いている気がしました。もちろん、社会のためにという使命感をもった業者さんもおられると思いますが、我々僧侶の立ち位置を再認識させてくれる場だったと思います
- ・まず何より「エンディング産業」という世界がこれほど多岐に亘り、かつ多様化していることを肌で感じる事ができました。同時にわたしたちが取り組む「まいてら」が一種独特であるのを知ることとなった
- ・「エンディング」について、世の流れ、世間の価値観を知ることが、僧侶にとってたいへん貴重な経験だと思えます
- ・リアルで利用者や潜在的な利用者となる可能性のある方々と会話したり触れ合えるご縁を結べるのは、極めて貴重である。さらには他のお坊さんの接し方から日頃のお寺でのご縁結びにも活かしたいと思う学びもたくさんあった
- ・エンディング産業に必要なのはやはり、ぬくもりだと思う。「まいてら」は、無味乾燥とするほかのいくつかの事業やブースを補完できる存在であることが確信できました

【本調査の照会先】

info@oteranomirai.or.jp

※免責事項

本資料に掲載されている情報の正確性については細心の注意を払っておりますが、一般社団法人お寺の未来(以下、当社)は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

掲載されている情報のうち、過去または現在の事実以外のものについては、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断による見通しであり、様々な不確定要素を含んでおりますことをご承知おきください。

